

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	地域排水整備事業	会計	款	項	目	多額経費	
		一般	8	3	3	〇	
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課				
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹				

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	過年度から進めている浸水箇所の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な、最も効果のある場所を選定する。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取り組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	地域排水施設	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減
②事務事業の概要	地域排水施設の能力不足や未整備であるものについて、下流への影響を考慮しつつ、河川・水路までの施設整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況の変化により、雨水の流出量が増加し、接続する河川・水路の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	・鎌ヶ谷二丁目地区(4期)42.5m、(5期)18.1m、初富字林跡地区14.5m、南初富二丁目地区20m、東道野辺五丁目地区181.5mの地域排水整備工事を実施した。 ・雨水浸透柵設置モニター工事にて雨水浸透柵を16基設置した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	整備工事完了・着手箇所数	21	22	24	箇所	業務取得
	ii	浸水面積(地域排水)	10	10	10	ha	業務取得
	iii	浸透柵設置基数	6,957	7,196	7,265	基	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算		
事業費(千円)	34,090	130,091	金額(千円)	内容		84,910	
国支出金(千円)	0		18,611	鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事(第4期)			
県支出金(千円)	0		16,720	鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事(第5期)			
市債その他(千円)	18,900	66,000	33,083	東道野辺五丁目地区地域排水整備事業		47,600	
一般財源(千円)	15,190	64,091	997	雨水浸透柵設置モニター工事		37,310	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、放流先の整備状況や費用対効果を考慮し、事業を進める必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	鎌ヶ谷二丁目、道野辺野辺中央五丁目、東道野辺地区、初富字林跡、南初富二丁目、浸透柵モニター、排水組合補助	令和元年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	鎌ヶ谷二丁目(第4期)(第5期)、初富字林跡、道野辺中央五丁目地区(第3期)、南初富二丁目の地域排水整備工事及び浸透柵モニター工事を完了した。、更に東道野辺地区排水基本設計委託を完了した。	88,650	160,252	当初	88,650	130,091	H30からの繰越	70,656
				H30⇒R1繰越	71,899			
③達成状況	未完了			補正			現年分	59,435
④未完了・非着手の理由	排水組合補助の繰り越しのため。			流用・充当	-297			
		令和2年度への繰越額(単位:千円)		8,624				

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	雨水貯留池整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	過年度から進めている貯留池の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な、最も効果のある箇所の選定を行う。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	過年度から進めている貯留池整備について、進捗を図り工事を完了させた。また、現時点で可能な、最も効果のある箇所の選定を行い、今年度より新たな箇所の事業に着手することとした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	雨水貯留池	意図(対象をどうするのか)	河川の流量の調整を行う 雨水の流出を抑制する
②事務事業の概要	大雨時における流出抑制のための貯留池整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる、依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	串崎新田貯留池の用地1902m2購入した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i 河川調節池の暫定整備率	85.7	87.5	87.5	%	業務取得
	ii 河川調節池の整備率	57.1	57.1	57.1	%	業務取得
	iii 貯留量	40,421	41,521	41,521	m3	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	126,968	53,224	金額(千円)	内容	44,074	
国支出金(千円)	0	0	50,223	串崎新田貯留池用地購入	0	
県支出金(千円)	0	0			0	
市債その他(千円)	95,100	37,900			32,600	
一般財源(千円)	31,868	15,324			11,474	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	放流先の河川整備が進まない中で、浸水被害のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	串崎新田貯留池整備事業	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	串崎新田貯留池整備事業用地1902m2を購入した。	53,684	53,981	当初	53,684	53,224	H30からの繰越
				H30⇒R1繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当	297		
		令和2年度への繰越額(単位:千円)					0

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	河川・水路整備事業	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	8	3	3	〇
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	整備時期は未定であるが、整備の目安が付いた段階で、整備方針等の検討を行う。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	整備時期は未定であるが、整備の目安が付いた段階で、整備方針等の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	整備の目安がついていないため、整備方針等の検討を行うことができていない。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①主要な水路 ②その他の水路	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流末としての施設の確保及び流下能力の向上等を目的とした暫定改修や、上流域の流末としての機能確保のため、1時間あたり50mmの降雨に対応した改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流の整備が進むと、市域の河川施設について将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	松戸市主体により実施している、紙敷川改修事業において、2年間の継続費設定とした、L=46.7mのうち、令和元年度分L=23.4mの河川改修工事が完了した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	主要な水路の暫定改修実施率	6.5	6.5	6.5	%	業務取得
	ii	主要な水路の50mm/hr改修実施率	2.6	2.6	2.6	%	業務取得
	iii	浸水面積(河川水路)	31.9	31.9	31.9	ha	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算	
事業費(千円)	2,784	3,721	金額(千円)	内容		1,020	
国支出金(千円)	0		3,721	令和元年度紙敷川改修事業負担金		0	
県支出金(千円)	0					0	
市債その他(千円)	0					0	
一般財源(千円)	2,784	3,721				1,020	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	下流河川の整備の目安がついていないため、1時間あたり50mmの降雨に対応した整備に取り組めていない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、費用対効果を考慮した暫定改修については実施する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	紙敷川改修負担金	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	紙敷川改修工事(R1)L=23.4mが完成した。	3,836	6,260	当初	3,836	H30からの繰越	1,330
				H30⇒R1繰越	2,424		
③達成状況	完了			補正		現年分	2,391
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		令和2年度への繰越額(単位:千円)				0	

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	準用河川整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	下流河川の整備が進んできたことにより、上流側でも将来形の整備を行っていく。また、暫定的な整備を行うしかない箇所では、将来の整備に後戻りの無いよう効果的な手法の検討を行う。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	下流河川の整備が進み、上流域において将来形の整備を実施しているところである。また、浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	準用河川	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流下能力の向上と護岸の保護のための暫定改修や、1時間あたり50mmの降雨に対応した河川の改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。下流側の整備が進んでいる場所もあり、市域の河川整備が可能な場所もある。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	・準用河川二和川バイパス整備(第4期)工事において、L=48.9mを整備した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i	暫定改修実施率	21.8	21.9	21.9	% 業務取得
	ii	50mm/hr改修実施率	11.4	11.4	11.4	% 業務取得
	iii	浸水面積(1級河川、準用河川)	81.5	81.5	81.5	ha 業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	366,419	298,396	金額(千円)	内容	533,515	
国支出金(千円)	76,000	64,300	95,040	準用河川二和川バイパス整備(第4期)工事	108,700	
県支出金(千円)	0	0			0	
市債その他(千円)	267,477	210,388			401,611	
一般財源(千円)	22,942	23,708			23,204	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	河川改修は下流から行うのが原則であるため、現時点で最も効果のある箇所を選定し、将来の整備に後戻りの無いよう実施する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	浸水被害により、市民の生命・財産に被害が及ぶ恐れがあるため、速やかに河川改修を行う必要性があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	二和川整備及び二和川護岸改修	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	二和川バイパス整備(第4期)工事 L=48.9m完成	343,952	434,592	当初	321,912	H30からの繰越	105,382
				H30⇒R1繰越	105,382		
③達成状況	未完了			補正	7,298	298,396	現年分
				流用・充当			
④未完了・非着手の理由	二和川護岸改修工事が未施工であるため。			令和2年度への繰越額(単位:千円)		131,848	

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	流域環境整備事業	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	8	3	2	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川管理課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	永末 昇			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	鎌ヶ谷市の河川等施設に応じた点検方法の制定。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	鎌ヶ谷市の河川等施設に応じた点検方法の制定。
②①に基づく取組み結果	国基準の情報収集と動向調査		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	河川、水路、調整池	意図(対象をどうするのか)	施設の機能維持
②事務事業の概要	河川、水路、調整池の適正な管理を行うため、除草、清掃やパトロールの委託を行うとともに、必要な補修工事を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設の老朽化が進んでおり、大規模な修繕とともに、長寿命化のための対策が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	○河川管理委託 ○河川・水路清掃委託 ○スクリーン清掃委託 ○河川・水路維持工事						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	河川・水路に対する満足度	—	16.0	—	%	市民意識調査
	ii	河川・水路除草面積	58,610	68,126	97,652	m ²	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算	
事業費(千円)	26,533	34,406	金額(千円)	内容		28,474	
	国支出金(千円)	0	0	17,182	委託料	0	
	県支出金(千円)	0	0	13,188	工事請負費	0	
	市債その他(千円)	0	0	3,978	負担金補助及び交付金	0	
	一般財源(千円)	26,533	34,406			28,474	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	施設の老朽化に伴う大規模な修繕や長持ちさせるための対策。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	法定管理者の責務として機能維持に努めることが必要のため					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	河川・水路の清掃・維持工事	令和元年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	河川・水路の清掃・維持工事	33,370	35,240	当初	33,370	34,406	H30からの繰越	0
				R1⇒R2繰越	0			
③達成状況	完了			補正	0		現年分	34,406
④未完了・非着手の理由				流用・充当	1,870			
				令和2年度への繰越額(単位:千円)				0